

パナマ内政・外交（2019年11月定期報告）

【ポイント】

○22日、コルティソ大統領は、諸人事案の承認のため、11月25日から12月19日までの日程で臨時国会を召集した。

○13日、コロンビアを訪問したコルティソ大統領は、ドゥケ大統領と首脳会談を行い、治安、移民、文化、観光、投資、経済、創造産業、民主主義の強化及び域内平和の分野において合意した。

【本文】

●内政

1 臨時国会の召集

（1）22日、コルティソ大統領は、諸人事案の承認のため、11月25日から12月19日までの日程で臨時国会を召集した。

（2）臨時国会期間、国会議員は、閣議決定された最高裁の新判事3名及び新代行判事6名に加え、今般辞任を表明したポルセル検事総長とディアス副総長の後任人事、更に前期会期で可決されなかった、空腹のない勉強（Estudiar sin hambre）プログラム導入等法案に係る審議を行うことが見込まれている。

2 バレーラ前大統領の汚職関与に係る情報の暴露及びポルセル検事総長の辞任

（1）経緯

ア 11月5日、バレーラリークスと呼ばれるHP上に、バレーラ前大統領と政府・民間関係者との間でのwhatsappの私的な会話内容とされるものが公開された。会話の内容から、民間企業から政党への多額の献金や、国会議員を巻き込んだ贈収賄や公共事業発注、近親者の就職斡旋、メディアへの圧力等、前大統領が関与する様々な汚職の疑惑が明らかにされた。

イ 特に大きく取り上げられたのは、伯大手建設オデブレヒト社とバレーラ前大統領の間で、パナマで同社が関与する汚職事件に対する判決の内容について交渉が行われていたことを示す同前大統領とホセ・ルイス・バレーラ前国会議員（前大統領実兄）の会話内容とされるものである。

ウ 当時のオデブレヒト・パナマ代表が、求刑内容からマネーロンダリングを除外すると共に、賠償額と懲役刑期を指定して要求したのに対し、バレーラ前大統領がマルティネリ元大統領の汚職への関与を示す文言を含めることを条件に承諾し、ポルセル検事総長に打診したとされている。

エ 12日、情報の出所や信憑性が明らかにされない中、ポルセル検事総長

はコルティソ大統領に辞表を提出，２０２０年１月１日付で辞任する旨表明した。

オ その他，２７日以降，２０１７年当時のバレーラ大統領とバラカット海事庁長官の間での，台湾との国交断絶の引き替えに，パナマ政府が中国から多額の献金を受け取った旨示唆する会話内容とされるものなどが取り上げられている。

（２）関係者反応

ア ７日，バレーラ前大統領は当地メディアのインタビューに応え，今回のバレーラリークスでの情報の暴露は，マルティネリ元大統領と彼のインテリジェンス集団のでっちあげた情報であり，全責任はマルティネリ元大統領にある旨発言した。

イ １１日，コルティソ大統領は，今回公開された情報は多岐に亘り，慎重に対応すべきテーマも含まれるため，情報の出所及び信憑性に係る調査が最優先である旨述べた。

ウ １２日，ポルセル検事総長は当地メディアのインタビューに対し，今回の辞任発表は，バレーラリークスの情報の信憑性を認めたためではなく，今後行われる調査に支障を来さないためである旨発言した。

エ 有識者からは，ポルセル検事総長の辞任表明を受け，真相究明のための調査を求める声に加え，コルティソ政権が（最高裁判事６名に加え，検事総長の人事権という）これまでの政権ではあり得なかったような，司法府の改革の権利を持つことに対し，汚職を看過する現在のパナマ司法府の抜本的改革を行う機会であると期待する声がある一方で，大統領が有する権限の肥大化を不安視する声が上がっている。

３ パナメニスタ党党内選挙の実施

（１）２４日，野党パナメニスタ党は，総裁を始めとした党執行部及び全国委員会を選出する党内選挙を行い，ブランドン前パナマ市長（※５月の選挙には同党大統領候補として出馬）が８０３票（投票率約６３％）を獲得し，同党総裁に選出された。２位は，これまで同党内で主導権を握ってきたバレーラ前大統領派とされるエチエレク元住宅大臣。

（２）今次党内選挙は，パナメニスタ党が与党から転落した５月の選挙結果を受け，至急党内改革が必要との党员全体の意向から実施された。そのため，今般選出されたブランドン新総裁を始めとした執行部の任期は，現行の総裁及び執行部の任期が終了する２０２１年までの２年間となる。

（３）ブランドン新総裁は勝利に際し，（バレーラ前大統領兄弟が主導権を握っていた）１３年間の一つのサイクルが終わり，改革と包摂の新しいサイクル

が始まる旨述べた。また、ホセ・ルイス・バレラ前総裁（前国会議員・バレラ前大統領実兄）は、自身のツイッターに、本日より党幹部から伝統的一党員に戻る、新しい執行部及び全国委員会への支持を表明する旨投稿した。

●外交

1 米国連邦議会議員代表団のパナマ訪問

（１）６日、コルティソ大統領は、パナマを訪問したスカリス米国連邦議会下院共和党院内幹事（Luisiana Steve Scalise）を代表とする議員代表団と会合を実施し、投資誘致、域内安全保障、二国間での貿易及び協力分野について取り上げた。

（２）本会合に同席したフェレル外務大臣は、議員団が、新政権発足後１２０日間の成果全てにつき満足の意を表明すると共に、コルティソ政権が現在取り組んでいるアジェンダについて肯定的に評価した旨述べた。

（３）本会合には、モンティージャ貿易産業大臣代行、ロハス大統領府投資促進担当大臣、モイネス外務次官が出席した。

（４）７日付大統領府プレスリリースによると、パナマと米国は、歴史的に緊密な協力及び相互尊重の関係を維持してきたパートナーであると共に、米国がパナマ運河利用国第１位のプレゼンスを維持し続けているとおり、両国は政治的、経済的及び戦略的関係を強化してきた。

2 フェレル外務大臣の第９回アジア・中南米協力フォーラム（FEALAC）への出席

（１）７日から９日まで、ドミニカ共和国のサント・ドミンゴにて開催された第９回アジア・中南米協力フォーラムには、フェレル外務大臣を始め両地域間での協力アジェンダの強化に関心を示す３２カ国の代表団が出席した。

（２）フェレル外務大臣は、両域内諸国との間で実施された様々な会合において、国の発展に寄与する官民両分野での協力を目指すパナマ政府の関心を示すことができたことに満足の意を表明した。

（３）本フォーラムの枠組にて実施された二国間会合に関し、まず、フェレル外務大臣はシエラ・キューバ外務次官と会談し、二国間・多国間アジェンダでの重要なテーマにつき協議すると共に、域内での建設的対話を強化し続けるパナマ側の姿勢を再確認した。

（４）また、バラクリシュナン・シンガポール外務大臣との会談では、二国間関係が両地域におけるハブ国家間の戦略的連帯であり、世界貿易の促進のため協力していく必要がある旨確認した。

（５）その後、フェレル外務大臣は鈴木外務副大臣と会談し、インフラ、国際

協力、海事及び持続可能な開発分野につき協議すると共に、両国の歴史的な友好関係を確認した。

(6) フェレル外務大臣は、バルガス・ドミニカ共和国外務大臣と会談し、緊密な二国間関係の更なる発展に向け、共通の関心事項につき協議した。

(7) 最後に、パナマは、カリブ諸国連合事務局長への同国の立候補の可能性について関係諸国に打診した。立候補が確定し、必要な支持を得られれば、域内枠組の重要なポストにパナマ人が初めて就くこととなる。投票は、来年度の第一四半期中に実施予定。

3 コルティソ大統領のコロンビア訪問

(1) 13日、コルティソ大統領はコロンビアを訪問し、ドゥケ大統領と首脳会談を行った。本訪問を通して、パナマとコロンビアは、治安、移民、文化、観光、投資、経済、創造産業、民主主義の強化及び域内平和の分野において合意に達した。

(2) 両国首脳は、二国間での対話と作業の調整を維持するため、二国間関係の最上級の枠組となる二国間閣議を開催することに合意した。

(3) 二国間貿易に関し、両国は、現行の部分的貿易協定によってカバーされる分野を見直し、これを深化させることで意見が一致した。両国首脳は、両国の貿易担当チーム間での会合において、双方にとって有益な協議が行われたことに満足の意を表明した。

(4) また、両首脳は、二国間での治安維持のための移民管理の強化のため、二国間での協力に係る了解覚書への署名に向け交渉していくことに合意した。また、二国間国境委員会(Combifon)及び両国軍部・警察の代表者会合を再活性化することに合意した。

(5) また、両国はパナマの観光開発の軸として、ポルトベロにある文化遺産の保護に向けたパイロットプランの作成につき合意した。

(6) ドゥケ大統領は、民主主義とその保護というラ米地域全体の課題について対話し、我々が共通の目的に取り組んでいることが明確となった。また、二国間で意見の相違がある場合は、建設的方法で取り組んでいくことに合意したことを評価する旨述べた。

(7) これまでコルティソ大統領はドゥケ大統領に対し、両国が2012年から世界貿易機関の場で解決に向けて取り組んできた、コロン・フリーゾーンから輸出する特定製品への関税引上につき会合を申し込んでいたが、会談後のプレスリリースでは、本件に関する成果について言及されていない。

(8) 本訪問には、フェレル外務大臣、ミロネス治安大臣、マルティネス貿易産業大臣、アギラル文化大臣、ベルガラPROPANAMA代表、バルサジョ

税関庁長官，ガルシア歳入庁長官，ゴサイネ移民局局長，フェラーリ・コロシ・フリーゾーン代表他が同行した。

4 ボルヘス・グアイド暫定政権外交担当コミッショナーのパナマ訪問

(1) 26日，フェレル外務大臣は，パナマを訪問したボルヘス・グアイド暫定政権外交担当コミッショナーの表敬を受けたことを認めた。

(2) 本会談には，サバルセ当地グアイド暫定大統領任命外交代表も同席し，ベネズエラに民主的制度を回復するための代替案等について協議した。

(3) フェレル外務大臣は，ベネズエラ危機への平和且つ民主的解決に向け努力していかなければならないとの姿勢を再度表明した。

(4) ボルヘス外交担当コミッショナーは自身のツイッターに，フェレル外務大臣との会談にて，パナマにおけるベネズエラ移民の状況及びベネズエラ国内の人道・民主的危機に係る見解について協議した旨投稿した。

(5) 世界銀行の報告によると，パナマにおけるベネズエラ移民は9万4千人となり，パナマはメキシコ及び中米諸国の中で最も多くのベネズエラ移民を受け入れている。

(了)